

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	コンテンツ企画論 (Contents Design)		授業コード	P110351
担当教員名	坪倉 篤志		科目ナンバリングコード	P21103
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数		
履修上の注意または履修条件	基本的なWindows PCの操作(ソフトウェア起動終了、日本語入力、ファイル処理等)と学内LANの利用(Webからの情報収集、メール等)ができること。演習内容を重視するので、出席を欠かさないで下さい。CG関連授業で学習する程度にPhotoshop / Illustratorを用いた制作ができること。著作権・肖像権などを理解した、課題への取り組みが必要です。			
受講心得	授業時はもちろん、課外の予習復習(自習)を通して、これらの目標が達成できるように学習を進めてください。 課題提出を重視します。毎回ステップアップ型で授業を進めますので、出席を欠かさないでください。 3回実施するプレゼンテーションは必須取り組み事項です。			
教科書	必要に応じて教員が資料を作成し配布します。□			
参考文献及び指定図書	ペーパープロトタイピング オーム社 人間工学ガイド 感性を科学する方法 サイエントリスト社 知的CAIシステム オーム社 MIND HACKS Tom Stafford, Matt Webb 著 オライリージャパン			
関連科目	コンピュータグラフィックス基礎、Webアニメーション、Webプランニング論、デジタルコンテンツ論、映像企画・取材学、広告デザイン			

授業の目的	システムを含むデジタルコンテンツ全般の企画立案に向けた座学と実践演習に取り組む。これらから、デジタルコンテンツの企画立案に向けた基礎能力の知識と実践能力を学習する。本授業では自ら分析し、考え、発案・発想する能力の育成にフォーカスして、学習に取り組む。
授業の概要	視覚認知と理解、コンテンツの企画と立案方法、発想方法について学習と演習にも取り組む。次に社会で利用されている代表的なコンテンツの、事例分析を行い、分析結果をグループ内でディスカッションから、他学習者による多角的な分析に触れる。指定したコンテンツの企画立案について、個人やグループで複数回取り組み、ドラフトの作成からプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは、相互評価と振り返り学習に取り組む。以上から、企画立案の基礎能力と実践能力を習得する。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週: ガイダンス、認知科学入門: 視覚認知	提出課題
第2週: 認知科学入門: 理解、わかるとは?	提出課題
第3週: コンテンツの企画と立案、コンテンツの種類と接し方	提出課題
第4週: 発想法と演習(ブレインストーミング、連想ネット、クリティカルシンキング)	提出課題
第5週: 事例分析演習1・グループディスカッション	提出課題
第6週: 事例分析演習2・グループディスカッション	提出課題
第7週: 演習1企画立案: 情報分析・企画書作成	提出課題
第8週: 演習1プレゼン資料作成、ドラフト作成	

		提出課題
第9週：演習1プレゼンテーション、相互評価、企画書のリライト		提出課題
第10週：演習2企画立案：情報分析・企画書作成		提出課題
第11週：演習2プレゼン資料作成、ドラフト作成		提出課題
第12週：演習2プレゼンテーション、相互評価、企画書のリライト		提出課題
第13週：演習3企画立案：情報分析・企画書作成		提出課題
第14週：演習3プレゼン資料作成、ドラフト作成		提出課題
第15週：演習3プレゼンテーション、相互評価、企画書のリライト		提出課題
第16週：		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリⅢ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	人の興味を惹くコンテンツの企画ができる。
【知識・理解】	視知覚、学習と理解、コンテンツ企画
【技能・表現・コミュニケーション】	クリティカルシンキング、ブレインストーミング、グループワーク、ロジカルシンキング
【思考・判断・創造】	人を動かすきっかけや心理を考察できる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		15点	10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		15点	10点	

【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		15点	10点
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		15点	10点
<p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会</p>			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	レポートの提出、レポートの記載内容
発表・その他 (無形成果)	課題やワークへの取り組み